キャラクター名: シアン・ペールアクア

プレイヤー名:

メインクラス	ウォーリア	**Lv.1:**		**レベル**	3
サポートクラス	ウォーリア	**Lv.1:**	ウォーリア	**性別**	男
称号クラス				**年齢**	18
種族	ヒューリン			**境遇**	記憶喪失
出自（効果）	騎士			**目標**	好奇心

	筋力	**器用**	**敏捷**	**知力**	**感知**	**精神**	**幸運**
基本値	20	11	10	8	9	9	6
ボーナス	6	3	3	2	3	3	2
クラス修正	2	2	2	0	0	0	0
他修正							
能力値	8	5	5	2	3	3	2

HP	60
MP	37
フェイト	6

装備品		**射程**	**命中**	**攻撃**	**回避**	**物防**	**魔防**	**行動**	**移動**
右手	フィランギ	至近	-1	9	0	0	0	-1	0
左手	ラウンドシールド		0	0	0	3	0	-1	0
頭部	ヘルム				-1	2			
胴部	スケイルアーマー					7			-1
補助									
装身具									
能力値			5	0	5	0	3	8	13
スキル									
その他									
総計(右)			4	9					
総計(左)			5	0	4	12	3	6	12
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	3			3	+ 2 d
トラップ解除	5			5	+ 2 d
危険感知	3			3	+ 2 d
エネミー識別	2			2	+ 2 d
アイテム鑑定	2			2	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
冒険者セット	
HPポーション	
毒消し	
にく 2	
MPポーション	
野菜	

現在重量： 13

最大重量： 40

所持金： 503

預金・借金：

スキル名	**SL**	**コスト**	**タイミング**	**射程**	**対象**	**判定**	**制限**	**メモ**
ハーフブラッド	★	-	パッシヴ	-	-	-	-	
効果：	タイミングがメイキングのヒューリン以外の種族スキルーつを修得。ただし幸運基本値-3							
バッシュ	3	4	メジャー	武器	単体	命中	-	
効果：	武器攻撃を行う。ダメージロールに+[SLd]							
セラトス	★	-	パッシブ/メイキング	-	自身	-	-	
効果：	筋力基本値+3							
カバーリング	1	2	ダメージロールの直前	至近	単体	自動成功	1ターン1回	
効果：	対象にカバーを行う							
カバームーブ	2	4	《カバーリング》	-	自身	自動成功	シーン中[SL]回	
効果：	カバーリング移動補助							
アームズマスタリー：長剣	1	-	パッシブ	-	自身	-	長剣のみ	
効果：	武器を使用した命中判定に+[1D]							
スマッシュ	1	5	マイナー	-	自身	自動成功	-	
効果：	ダメージに+[筋力]							
スラッシュブロウ	1	3	DR前	-	自身	自動成功	シーン中1回	
効果：	攻撃のダメージに+[（SL×2）D]							
ボルテクスアタック	1	-	効果参照	-	自身	自動成功	シナリオ1回	
効果：	攻撃を[対象：単体]に変更、ダメージに+[SL×10]する							
プロボック	1	4	セットアップ	10m	単体	筋力	-	
効果：	対象の【精神】と対決を行う。この対決に勝利した場合、相手に[逆上]を与える							
エンラージリミット	★	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果：	携帯品の重量制限が[【筋力基本値】×2]							
アスレチック	1	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果：	【筋力】判定に+1D							
ファーストエイド	1	-	メジャー	至近	単体	器用	-	
効果：	難易度10の器用判定							
トレーニング：筋力	1	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果：	選択した能力基本値に+3する							
効果：								

目覚めたとき僕はからっぽだった、中身の入っていないジャム瓶のように空虚な頭の中。
でも不思議と怖くは無かった。記憶が無いからなのか、もともとそういう気質だからなのかは分からないが、目に映る全てのものが色鮮やかに見えた。
川は静かに流れ、木々は青々として、日が暮れても月や星が道を照らしてくれた。幸いにもこの世界で生きていくためのルールは分かっていたので、生計を立てていくのには苦労しなかった。

そういえばふと思い出した、僕の両親は騎士だった…はず。だからなのかは分からないけれど、確かに僕は頑強で力持ちだ。
顔も声も、どんな姿だったかさえも分からないけど、両親に感謝する気持ちは忘れちゃいけないね。

今のギルドメンバーとはある酒場で呑んでいるときに出会った。リーダーで体の小さいキャリト、笑顔の素敵なセレル、猫耳が可愛いケット、女の子だと思ってたタンジェ。みんないい仲間だ。

どんなに世界を歩いても、どんなものを見ても興味は尽きない。空っぽのジャム瓶だった頭の中もたくさんの思い出で満たされてきた。
でもまだまだこの世界には僕の知らないことがたくさんだ。好奇心は僕の動力、次はどこへ行こうか。